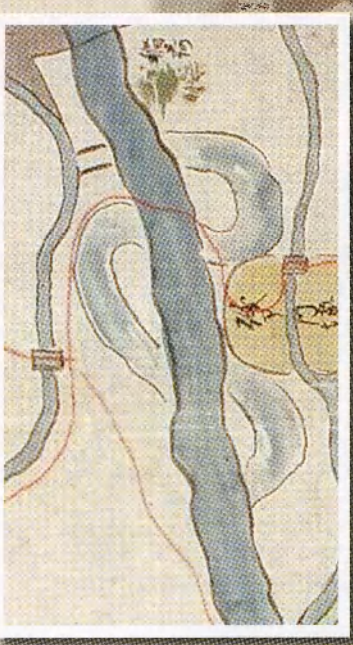
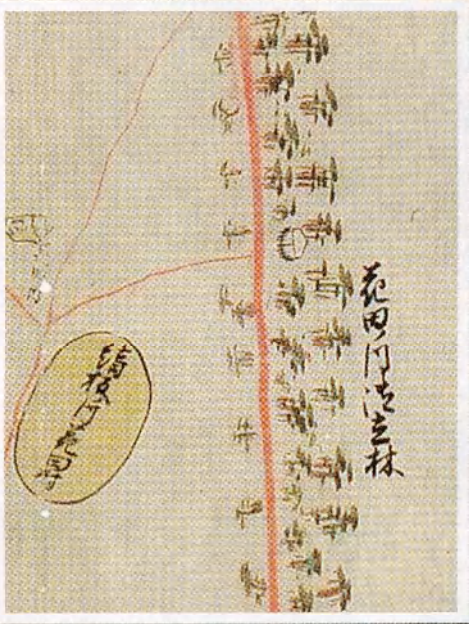
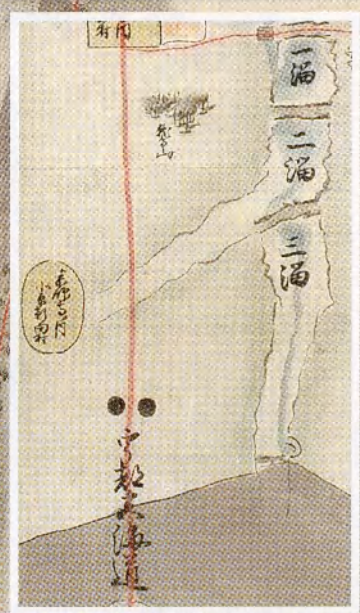
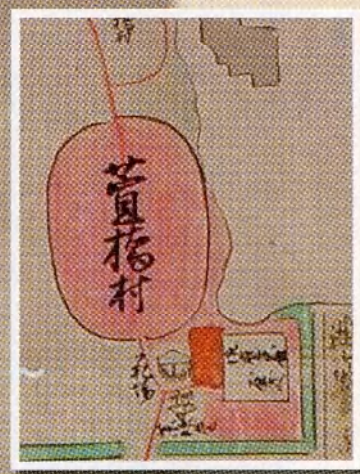


公文書館だより

第27号

平成24年 3月12日

- 村名
- 町名
- 郡名
- 藩界
- 領界
- 村界
- 領主屋敷
- 寺社
- 橋
- 川
- 池
- 山
- 海岸
- 道路
- 堤防
- 石
- 塚
- 墓
- 古墳
- 遺跡
- 遺物
- 遺構
- 遺跡
- 遺物
- 遺構



「薬師寺村外九ヶ村申出図」(県C-248、130cm×219cm)
 拡大写真は絵図検索データベースを使用。詳細は2ページ参照。

デジタル閲覧スタート!!

「絵図検索データベース」のお知らせ

当館は約二、六〇〇点の絵図を所蔵しています。

絵図は公文書館利用者にとって関心の高い資料のひとつですが、現物を開かないとどのような絵図かわからない難点があるほか、軸物の大型絵図は閲覧室での閲覧自体が不可能な状態です。また、なかには劣化がすすみ閲覧停止を余儀なくされている絵図も多数あります。



当館ではこのたび、「絵図撮影・デジタルデータ化事業」に取り組みました。この事業により、原本の保存を図るとともに、約八〇〇点の絵図をモニターを通して利用者の皆さまに手軽に閲覧していただくことができるようになりました。

このデータベースやモニターには次のような特徴があります。

- 「検索スタート」ボタンを一度クリックするだけで、簡単に「検索データベース画面」に入れます。難しい操作はまったくありません。
- 「検索データベース画面」には、八〇〇点の絵図写真と資料名・資料番号のほか、多くの基本情報が詳しく掲載されています。そこから興味ある絵図写真をクリックすると、その絵図の全体図に画面が変わります。
- 全体図は自由に移動・拡大させながら絵図に記されている内容を細かい部分まで読み取ることができます。たとえば表紙の絵図の左

右にある写真が全体図から一部分を拡大したものです。

●特定の絵図を見るときは、キーワードを入力することで検索が可能です。資料名だけではなく基本情報にいたるまで、すべての絵図資料のリストで検索可能になっています。

秋田県はもとより全国的にも先駆となる事業であり、完成品の出来栄えも利用者の皆さまに満足していただけていると思います。ぜひ多くの皆さまにご利用いただきたく、ご来館をお待ちしております。



表紙解説

「薬師寺村外九ヶ村申出図」

(県C―二四八)

現在の栃木県下野市・小山市には秋田藩下野領がありました。慶長年間に佐竹義宣が江戸幕府より拝領されたものです。

「下野御領郷村高辻帳并古書写」(県A―一三九)によると、寛永期の秋田藩下野領は、河内郡の薬師寺村・仁良(葦)川村・町田村・田中村・東根村・絹板村・磯部村・花田村の八か村、都賀郡の萱橋村・山田村・飯田村の三か村計十一か村で、惣石高は五、四一九石八斗六升です。後に、数村の村替えがあったものの、秋田藩下野領は明治四年(一八七二)まで存続しました。

絵図中には結城・宇都宮街道沿いに形成されていた町並みをはじめ、一里塚・御立林・御札場・御鷹屋敷・河道の変化などが詳しく描かれています。

この絵図は天和元年(一六八一)に作成されたものですが、当館は他にも享保・天保年間等の秋田藩下野領の絵図を所蔵しており、それらと比較すると村々の変遷の様子がわかります。

資料紹介

金光家文書 〜楠流軍学の家〜

平成二十年十二月に当館に寄贈された「金光家文書」が、このほど資料整理を終えて新たに公開されました。一二点の公開点数には、七〇点あまりの楠流軍書をはじめ、軍学関係資料や金光家の由緒をあらわす資料が含まれます。

金光家は、一子相伝の楠流軍学を伝えたとされ、明暦一年（一六五六）、金光主水友成が二代藩主佐竹義隆に軍術師範として二百石で仕えて以



金光家文書（一部）

来、代々佐竹家に仕えた秋田藩士の家です。明治十七年（一八八四）作成の「橘姓金光氏系図録並附録」（資料番号金光四）には、代々京都の高倉家に身を寄せていたところ、高倉家から佐竹東家に養子となった佐竹山城義寛を頼りに、友成が秋田に下向したとの逸話が見られます。

ところで友成は、秋田下向の際、秘伝の軍法四十八巻や楠木正成の真像などを携えたとされています。このうち、延宝二年（一六七四）に三代藩主佐竹義処の要望により秘伝の軍書を披露した記事が、「国典類抄」前編嘉部四十五に見られます。その後、軍書の写しが作成され、藩主義処が非常に喜んで

いる様子を伝える家老梅津忠宴の書状が「金光家文書」に含まれています（金光一七）。

その後しばらく軍術師範としての活躍は見られず、嘉永期に金光

清治正家が再び師範に復したことが系図に記されます。当時の家老宇都宮孟綱の日記にも、嘉永六年（一八五三）四月二日の記事に、武術の諸派の師範にならび「一子相伝楠流 金光清治」の名前があり、また安政四年（一八五

七）六月二日には、楠流師範として牛嶋村で訓練を希望している記事が見られます。

つづく金光栄正清は、系図によると明治三年に難波兵学寮（大阪兵学寮、陸軍士官学校の前身）に入寮しています。「金光家文書」には正清の古写真（金光一五）や学生の集合写真（金光一六）が含まれます。



金光栄写真



楠正成真像

しかし正清は明治十四年に亡くなり、祖父正家が後見人となり金光正義が家督を継ぎます。

明治二十七年、明治天皇の大婚二十五年祝典（銀婚式）にともない、正義は代々所持していた楠木正成の画像一幅を、県を通じて宮内省に献納します。このとき知事にあてた献納願が「金光家文書」に含まれ（金光一〇）、当時の県行政文書でも「楠正成真像古掛物壹幅」が金光正義より献納されたことが確認できます（「第一課庶務掛事務簿」資料番号九三〇一〇三一―二〇四〇）。この真像については、献納前に撮影された写真が「金光家文書」に含まれます（金光一四）。

「金光家文書」をはじめとする当館の所蔵資料は、二階閲覧室でご利用いただくことができます。

平成二十三年度 秋田県公文書館企画展

「公文書館資料に見る近代秋田の電気事業」

前期 八月二十六日～九月二十六日
後期 十一月二日～三十日
場所 当館特別展示室



今年度の企画展では、東日本大震災によって重要性がクローズアップされた電気をテーマに、明治から現在までの電気事業の沿革を行政文書

でたどり、先覚達の業績や当時の世相について紹介しました。

本県の電気事業の歴史を時代順に簡単に説明すると、鉱山内の自家発電に始まり、近江谷栄次等による電灯用発電の開始、小規模な電気会社の登場と統合、県外の企業による買収、戦時中の国家統制、そして戦後の電源開発という流れになります。

展示では、9コーナーに分けて各時代の資料を紹介しました。

展示資料の一例として、後期に展示しました明治三十八年「発電水面使用及水路新設願書」を紹介します。この資料には、秋田電気株式会社の小滝発電所や小坂鉱山の止滝第二発電所に関する文書が綴られています。本県の電気事業のはじまりは明治三十年代の初頭とされていますが、その頃の資料は「地理事務簿」や「土木事務簿」に部分的に綴じ込まれていました。

この資料が作成された明治四十年頃になると、電気事業に関する資料が単独でファイリングされるように

なって、発電のための土地や水利権の取得、工事の着工や竣工など事業の動向が分かるようになりました。この他にも、大正時代に電気会社が県内に三十近くあったことを示す資料や、戦前の防空灯火管制に関するもの、あるいは秋田電気軌道の路線図など電気に関するたくさん資料を今回の展示で紹介しました。

企画展は、当館所蔵資料を紹介する場であると同時に、当館の閲覧利

用の普及につなげるものです。ご来館の皆さまに満足していただけるよう、来年度の企画展もより良い展示を目指したいと思います。

なお、企画展のパンフレットについては、本館のホームページよりダウンロードできますので、是非ご利用下さい。(URL: <http://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyok/>)

秋田県公文書館巡回展

「戦国時代の秋田展」開催

六月から七月にかけて、新潮社記念文学館（仙北市角館）を会場に「戦国時代の秋田展」が開催されました。

昨年度の当館企画展の一部とあわせて、角館にゆかりのある県指定文化財「北家御日記」が展示され、江戸時代のクニマスに関する記事などが紹介されました。

展示期間中、四百名を超える方々にご覧いただきました。



「史料に見る江戸時代の森林」

十一月二十六日、「史料に見る江戸時代の森林」をテーマに、徳川林政史研究所（東京都豊島区）主催の公開講座が、当館多目的ホールを会場に開催されました。

徳川林政史研究所は、尾張徳川家に伝わる古文書や全国の林業史関係資料を公開するほか、江戸時代を中心とした林業生産や流通に関する研究活動などを行っている林業史研究機関です。また森林保護・育成に関する歴史資料の保全を目的に、全国各地の資料調査を進め、秋田県内でも各地に残された歴史資料の調査・分析に取り組んでいます。

この研究成果をもとに、秋田の事例を中心として江戸時代の森林のあり方を考える講座が、研究所と当館により企画されました。

講座当日は、研究所の竹内誠所長のご挨拶につき、前半は太田尚宏氏（研究所主任研究員）・脇野博氏（秋田工業高等学校教授）・芳賀和樹氏（研究所非常勤研究生）による報告、後半は田原昇氏（同非常



勤研究員）の司会により、三名の報告者とともに質疑・討論が進められました。
当日は、秋田県外の方を含む七十五名の方々に参加いただきました。報告と質疑・討論の概要は、「研究紀要」第十八号に掲載しています。

公文書館講座

平成二十三年年度の「公文書館講座」を左表のとおり実施しました。

「古文書入門コース」一九三名、「古文書解読コース」一二七名、「アーカイブズコース」一〇一名、のべ四二一名の参加があり、どの回も熱気ある講座になりました。
平成二十四年度もさらに充実した講座を準備しますので、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。



古文書入門コース

はじめて古文書を学ぶ方を対象に、6回連続で実施

実施日			
第1回	7/9(土)	第2回	7/23(土)
第3回	8/6(土)	第4回	8/20(土)
第5回	9/3(土)	第6回	9/17(土)

古文書解読コース

これまでに古文書を読んだ経験のある方、現在勉強されている方を対象に実施

実施日	テーマ
第1回	7/22(金) 正徳二年の公儀御触書
第2回	8/5(金) 宝暦銀札事件の一断面
第3回	8/19(金) 江戸後期秋田藩の藩政改革 中
第4回	9/2(金) 久保田から江戸までの旅中日記

アーカイブズコース

歴史資料や公文書館の諸活動に興味・関心のある方を対象に実施

実施日	テーマ
第1回	10/7(金) 続・戦国時代の秋田 ～秋田藩家蔵文書の世界Ⅱ～
第2回	10/21(金) 「県映画」からみる秋田の世相
第3回	11/4(金) 公文書館資料に見る 近代秋田の電気事業
第4回	11/18(金) 佐竹文庫・魅力再発見 ～56年ぶりの目録改訂より～

平成二十三年度

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議は、県内市町村の各担当者の情報交換を目的に毎年開催しており、今年度は十一月八日に開催しました。

基調講演には、新潟大学人文学部、災害・復興科学研究所の矢田俊文教授をおむかえして「地域災害・水害と文化財・歴史資料レスキュー―新潟県を中心に―」というテーマでお話いただきました。

三・一一の東日本大震災を受けて今年度は防災・復興について誰もが改めて考えさせられた年でした。災害時には生命と生活のレスキューが何より優先されますが、文化のレスキューも同時に忘れてはならないことです。

中越地震や東日本大震災の経験をふまえての生々しいお話は各参加者にも強い印象を与えたようでした。講演の詳細は当館の「研究紀要」第十八号をご覧ください。

会議の後半では、秋田市・大仙市・仙北市から文書管理条例の制定作



業状況や資料整理の取り組み、普及活動などについて事例報告があり、これをふまえて意見交換がなされました。

本年度四月の公文書管理法の施行をふまえ、県内外で公文書館機能の新設や公文書・歴史資料の保存について動きがあります。当館としても各市町村や関係方面との情報の共有化に努めるとともに、このような動きに助言・支援を検討します。

公文書の引渡し・公開状況

県の各部署で作成され県庁舎地下書庫などで保存されている公文書は、保存期間経過後に当館へ毎年引き渡されます。

前年度知事部局から引渡しを受けた件数は約七千件です。

これらは、毎年当館の基準により評価・選別を行い、後世に継承すべき県政資料として利用者への公開等に備え、当館の書庫に保存します。

一方、当館に現在保存されているもののうち、作成後三十年経過した公文書については、毎年利用者への公開に向けて個人のプライバシーを侵害する情報があるかどうかを主眼に点検し、作成原課との協議を経て、目録作成・データベース登録など公開に向けた作業を行っています。

昨年公開対象とした公文書の内訳は下表のとおりで、合計五百九十九件です。どなたでもカウンターへ閲覧請求の上、原本を（非公開情報は被覆の上）ご覧になれますのでお気軽にご利用ください。

平成23年新規公開状況

新規公開の候補とした公文書		2,091件
内	公開と決定	599件
	非公開と決定	1,492件
訳	理由	非公開情報が多数含まれている(※1)
		作成原課で現在も利用している(※2)
		106件

※1 非公開とすべき年数が満了した時に公開となる
※2 情報公開条例による公開請求対象となる

引渡し・保存状況

	引渡件数	保存件数	保存率
知事部局 (平成22年度分)	6,968件 (11,577冊)	609件 (1,351冊)	8.7%
各行政委員会 (平成21年度分)	123件 (157冊)	46件 (59冊)	37.4%

大好評!!「県政映画上映会」
懐かしき昭和30年代の我が秋田

八月二十八日と十一月三日文化の日に、「県政映画上映会」懐かしき昭和30年代の我が秋田」を、当館三階多目的ホールにて開催しました。

「県政映画」は、県が昭和三十年から制作し、県内各地の映画館で本編映画の幕あいに上映されてきました。県政に関するニュースだけでなく、県内各地の様々な話題を提供していた、いわば「秋田のニュース映画」です。

当上映会は、ノスタルジーあふれる昭和三十年代の映像を、県民の皆さまにスクリーンで味わっていただく目的で、平成二十一年度から始まりました。たいへん好評であったことから翌二十二年度からは上映本数を五本（上映時間約五十分）に増やし、午前午後と二回繰り返し上映し、これを年二回開催することとしました。そして今年度は、当館の普及行事として定着させる年としました。過年度のアンケート結果を踏まえ、新たにパンフレットを配布し、また

冒頭と中間にナレーターによる解説を加えるなど、お客さまの理解がより深まるように努めました。

その結果、たいへんな好評をいただき、八月の上映会には七十七名、文化の日には一四四名、合計一九一名の方々にご来場いただきました。特に文化の日の上映会では午前午後ともにほぼ満席となり、複数の報道機関も取材に訪れ、会場はこれまでにない熱気に包まれました。皆さま



真剣な表情で観賞されていましたが、特に御年輩の方々の、笑みを浮かべ懐かしそうに楽しまれている様子がとても印象的でした。

お客さまのご感想をいくつかご紹介します。「昭和三十四年は就職した年であり、当時は思い出し癒やされた。良き時代があったと回想している。」（七十代、男性）、「秋田県の歴史の歩みを見ているようで、たいへん感動した。今後も続けて上映してほしい。」（八十歳以上、男性）、「三十年代の秋田の元気を感じた。自然の恵みを受け、人々が協力し合う姿がとても印象的。すばらしい企画だ。」（六十代、男性）、「今回で三回目だが、珍しい映像ばかりで昔を懐かしく拝見した。次回は孫にも見せたい。」（七十代、男性）、「昭和三十年代前半から高校入学、卒業、就職と、五十年前を思い起こす貴重な記録だと思った。」（七十代、男性）、「懐かしかった。昔はこうも人がいっぱいいて、改めて今日の人口減少がさみしい。」（七十代、男性）、「私も国体にむかって頑張っていたので感無量。」（六十代、女性）、「昭和三十年代の珍しい映画会。当時の様子がたいへん生き生きととらえられていて、発展していくという力強さを感じ



11月3日（木）文化の日上映「雄物川のさけ網」より

ました。」（七十代、男性）。お客さまにとっても有意義な時間を過ごしていただき、とてもうれしく思うと同時に、当館の行事として着実に定着しつつあることを実感しました。

文化の日の上映会の様子は、AKT秋田テレビ「スーパーニュース」や秋田魁新報などで、大きく取り上げられました。

来年度も「県の記念日」と文化の日に合わせて開催する予定です。皆さまのご来場を心からお待ちしております。

ますます充実しました

閲覧室からのお知らせ

●「北家御日記」 翻刻本の配架

「北家御日記」は、角館の所預であった佐竹北家により延宝二年（一六七四）から明治二十七年（一八九四）まで二二〇年間にわたって書き継がれた記録です。

藩政の展開を知る上で貴重な資料として、多くの方々から注目を集める「北家御日記」ですが、このたび全七六五冊分の翻刻文をすべて活字で入力し、印刷した冊子を閲覧室に配架しました。

●「佐竹文庫」 新目録の刊行

当館では、平成二十三年三月に「佐竹文庫目録」を刊行しました。五八六四点におよぶ資料を一点一点あらためて見直し、資料名や年号、作成者などの資料情報の充実をはかりました。

また、目録の改訂とともに、佐竹文庫のほぼすべての資料をマイクロフィルムで撮影し、閲覧室内に複製本を配架しました。

●新規公開資料の紹介

平成二十三年度、当館では新たに三つの資料群を公開しました。

「金光家文書」

楠流軍学を伝える金光家の伝来文書。一・二点。詳細は三頁の資料紹介参照。

「鈴木家文書」

亀田藩八田村の肝煎をつとめた鈴木家の伝来文書。二九一点。証書類のほか近世後期の高組五人組割帳・大福帳・算用帳など多数。

「岡田清一収集資料」

「佐竹義宣公御一世覚書ヨリ御領内道程并御境目迄」一点。康応御記録之写・御記録留書など六冊合冊。

このほか、絵図検索データベースの設置（二頁参照）など、新しいサービスがはじまります。

さらには、賀藤景林・景琴父子の残した「賀藤家文書」の複製資料の配架や、秋田藩家蔵文書のデジタル画像閲覧なども予定されています。初めての方も、どうぞお気軽に閲覧室に足をお運びください。

平成二十四年度

行事予定

◆企画展

「絵図にみる近世秋田」（仮）
前期 8月24日～9月23日
後期 11月21日～12月16日

◆公文書館講座

古文書解説コース・入門編
6/30・7/7・7/14
（すべて土曜日）

古文書解説コース・初級編
7/21・7/28・8/4
（すべて土曜日）

古文書解説コース・上級編
9/7・9/14・9/21・
9/28（すべて金曜日）
アーカイブズコース
11/2・11/9・11/16・
11/23（すべて金曜日）

◆県政映画上映会

第一回 8月26日（日）
第二回 11月3日（土）

◆古文書相談日

毎月第二・四火曜日
（ただし8月14日・10月10日・
12月25日は除く）

公文書館

利用案内

◆開館時間（平成24年度）

平日、土日・祝日とも
10時～18時（通年）

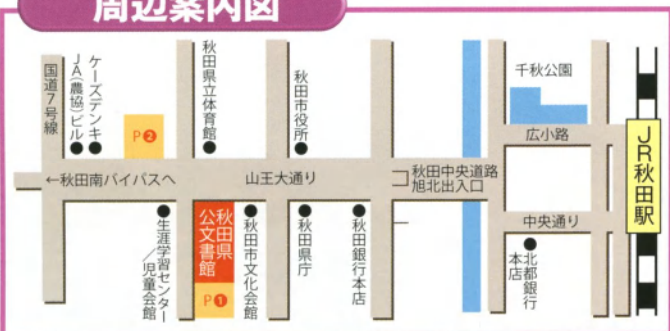
◆休館日（平成24年度）

月の初日（土日の場合は翌日）

4/2・5/1・6/1
7/2・8/1・9/3
11/1・12/3・2/1
3/1

年末年始（12月28日～1月3日）
特別整理期間（10月1日～18日）

周辺案内図



編集発行：秋田県公文書館
〒010-0952 秋田市山王新町14-31 電話018(866)8301
URL <http://www.pref.akita.lg.jp/kobunshyo/>

この印刷物は二〇〇〇部作成し、その経費は一部当り二六・五二円です。